

【目次】

農業研究所の新たな役割と取り組み	1
イチオシ成果情報の紹介	
【すぐに普及に移せる成果】	
お米がきれいで、もっちりとした食感をもつ水稻新品種「三重23号」を開発しました	2-3
三重県産コシヒカリの品質を支える生育後半の窒素溶出量を高めた新肥料！	4-5
小麦WCSの収穫適期を見ただ目で判断できます	6-7
農園をサルの被害から守るためのイヌのけい留装置を開発しました	8-9
【これから普及が期待される成果】	
指標生物を利用した農業における生物多様性の評価方法	10-11
県の成果情報について	12

農業研究所の新たな役割と取り組み

三重県農業研究所 研究管理監 平野 三男

農業研究所は、三重県における農業技術開発の中核機関として、これまでに農産物の低コスト化・高品質化技術や新品種開発、病虫害防除、安全で環境負荷の少ない生産技術などの研究に取り組んでまいりました。その結果、古くは全国的に普及された茶園の防霜ファンや水稻移植機の開発を行い、最近では水稻、いちご、かんきつなどの新しい品種を育成するとともに、多様な生産、行政ニーズに対応した多くの研究成果を生み出しています。

本年度からスタートした「みえ県民力ビジョン」では、三重県の強みである「食」の魅力を活かした「もうかる農業」への転換を進めることが定められており、研究所には新たな農産商品やサービスの開発・実用化が求められています。そこで、研究ニーズの把握から、研究テーマの選定、研究実施、さらに成果の検証に至る研究の取り組み過程を見直しました。すなわち農業者だけでなく、食品産業事業者とのコラボレーションを深め、新しい商品やサービスの開発に取り組んでいるところです。本年度には、いくつかの商品・サービスの成果が得られており、この成果情報集第2集においては、水稻新品種「三重23号」や農園のサル被害を防止するための犬のけい留装置の開発などを、写真を多用してわかりやすく紹介しています。

今後とも県民の皆様のご期待に添えますよう努力してまいりますので、ご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。